



創立1880年

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6階 Tel 03-6302-1960 URL http://tokyo.ymca.or.jp 発行所 公益財団法人 東京YMCA 発行人 星野太郎

東京YMCA

2026

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

東京YMCAソシアスフォーラム2025

いのちを守る取り組みに学ぶ



ボランティアリーダーによるレクリエーションタイム



基調講演後、小グループで感想や気づきの分かち合い



参加者全員で「Y」ポーズ



「買って応援」能登支援物産品販売

社会課題やYMCAの働きについて学び交流する「ソシアスフォーラム2025」が1月31日、山手コミュニティセンターで開催され、会場とオンライン合わせて78人が参加しました。

聖書と祈りで開会し、上田晶平・東京YMCA中期計画推進委員長による「TOKYOYMCAVISION150」の進捗共有(13面)、社会福祉法人賛育会「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」事務局長の大江浩氏による基調講演へと続きました。

また、ボランティアリーダーによるレクリエーションや能登物産品販売も行われ、会場は活気と和やかな一体感に包まれました。物産品は、東京YMCAが輪島市町野町での支援活動を通して関係者から取り寄せたもので、「買って応援」という形で被災地に思いを寄せました。

終了後のアンケートには、「基調講演は心に響く、有意義な内容だった」「身近な問題を東京YMCAと一緒に考えたい」「姿勢が感じられた」「リレーのレクリエーションと歌が楽しかった」「意見を分かち合えたのは良かった」などの感想が寄せられています。

課題の共有や意見交換、交流を通して、YMCAの働きを共に考えた今回のソシアスフォーラム。ここで得た気づきやつながりが、これからの歩みを後押ししていくことが期待されます。

(広報室)

基調講演概要



大江浩氏

社会福祉法人賛育会事務局 ミッションサポート部長 赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長

プロフィール

神戸YMCA・横浜YMCA・日本YMCA同盟の元スタッフ。JOC(日本キリスト教海外医療協力会)で途上国の医療協力、社会福祉法人興望館で児童福祉に携わり、社会福祉法人賛育会にて「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」に関わる。

「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」が問うこと

キリスト教スピリットに導かれたつながり

計31年間のYMCAスタッフ経験の中で、私が大切にしてきたのは、神戸YMCA総主事(当時)から教えられた「人間相手の仕事」「ネットワークでありなさい」という言葉でした。すなわち、一人ひとりのいのちを大切に、人と人、資源をつなぐ存在になるということです。その土台には「弱い人の側に立つ」というキリスト教のスピリットがあります。私が「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」の立ち上げに関わったのも、人との出会いやつながりに導かれてのことでした。

誕生と隣り合わせの死

私がJOC(日本キリスト教海外医療協力会、京都大学YMCAにルーツを持つ)で母子保健と新生児医療に取り組む中で見えてきたのは、1分に1人、出産時にいのちを落とす女性の状況でした。途上国では多くが産婆さんによる自宅出産であり、長時間かけて歩いて医療機関にたどり着いても母子を救えないことがありました。

母子支援を原点とする賛育会

賛育会は1918年、東京大学YMCAが困窮する母子のために始めた妊婦乳児無料相談所が原点です。翌年には、日本初の庶民向けの産院を開設しました。母子支援の精神は、「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」にも受け継がれている賛育会のDNAと歴史です。

「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」

賛育会病院内の母子支援室には、DV、虐待、貧困、外国籍、特定妊婦(※)など、さまざまな事情を抱えた人々から相談が寄せられます。飛び込み出産や妊婦健診未受診の妊婦も受け入れており、分娩の1割に介入(支援)が必要ですが、共通して背景にあるのは、社会的貧困と孤立無援という社会課題です。そこで賛育会は、病院と社会福祉法人が協働し、その原点と使命のもと、看過できない現実に向き合うべく「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」を立ち上げ、次の3つの事業に取り組んでいます。

静かなる緊急事態

2000年初頭、ユニセフは「静かなる緊急事態(サイレント・イメージンシー)」という言葉を掲げました。当時、3〜4秒に1人、年間1,100万人の子どもたちが5歳未満で亡くなっていました。近年は11秒に1人に改善されたものの、今の時も、安全な水や食べ物、医療があれば守れるはずのいのちが失われています。報道されない日常の中で静かに進行するこの現実こそが「静かなる緊急事態」です。

日本にも存在する危機

こうした問題は途上国だけのものではありません。日本では「0歳0カ月0日」の虐待死が最も多く、私たちの身近でも見えにくい形で「静かなる緊急事態」が起きています。私が興望館の児童養護施設で知った子どもたちの切実な問題や、保育園園長時代の経験も、「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」へとつながりました。

「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」

個人情報を病院の一部の職員にのみ明かして出産できる。孤立出産などのリスクを避け、安全な病院での出産を

可能にする。

(3) ベビーバスケット (通称:赤ちゃんポスト)

さまざまな事情で育児が困難な人が、赤ちゃんを匿名で預けられる窓口。

社会に問われるもの

このプロジェクトが問うことは、「社会的孤立、関係性の貧困」「いのち・尊厳・人権とは何か」「最も弱い立場に置かれている人は誰か」ということです。私たちが最優先するのは母子のいのち。社会の無関心は、その立場をさらに弱くしてしまいます。一人ぼっちで苦しむ人に寄り添う医療と福祉、問題を共有するコミュニティが広がり、ベビーバスケットが不要になる社会、すべての人のいのちが大切にされる社会の実現を願っています。

* 出産後の養育に困難が見込まれるため、出産前から支援が必要な妊婦



赤△三角

私とYMCAの出会いはいは3歳頃。人生の約95%をYMCAと共に歩んできた。江東YMCA幼稚園の園児にはじまり、

副園長 高橋里香

小学年から高校生まではスキーキャンプや中高生活のメンバーとして、学生時代はリーダーとして活動した。社会人になってからは職員・会員として関わってきたが、振り返ってきただけで、振り返れば、どの時代でも人との出会いが私を導いてくれた。▼メンバー時代には学校が異なる友だちとキャンプで生活を共にし、新しい環境への適応力を身につけた。リーダー時代仲間と共に成し遂げる喜びを感じながら、子どもたちのために活動しているつもりが、実は自分が育てられていた。社会人では、仕事の基本や人のコミュニケーション力を培い、チームで働く大切さを学んだ。▼現在は保育園で園児たちと過ごしている。縁あってYMCAの保育園に通う子どもたちに、家庭を離れて初めての社会である保育園で、家族以外の大人や子どもと生活しながら、人との関わりを築いてほしいと願っている。▼YMCAは、年代や立場に応じた関わりの中で、人が育ち合える場所。私は、そのことを実体験として知る一人である。

サマーキャンプの感想(抜粋)

※読みやすさを考慮し、一部表記を整えています。

参加者より

- すごく楽しかった。初めて会う人しかいないから、最初はすごく緊張したけど、すぐに仲良くなれて、自分も自分らしくいられたと思う。いろんなことに挑戦できて、夏休み一番の思い出になった。(ベネズエラ、中1)
- キャンプでは、みんなでかくれんぼやそうじ、キャンプファイヤーなどをやりましたが、かくれんぼが楽しかったです。入浴も楽しくて、もっと入りたかったです。(アメリカ、小4)
- 夕方、赤い富士山を見ました。すごきれいでした。(オーストラリア、小3)

保護者より

- キャンプは、子どもにとってとても印象深い体験でした。明るく活動的なスタッフやリーダーに支えられ、さまざまな活動に挑戦し、「とても楽しかった」と何度も話していました。日本語はほとんど話せませんが、他の子どもたちと自然に交流できたことも、良い経験だったようです。(ウクライナ、小4・中1)
- とても良い顔で帰って来たので、楽しかったんだなと思いました。いつもと違う環境や友だちの中で自信がついたように見えます。外国にルーツがあることで少し悲しい経験をして殻に閉じこもりがちでしたが、今回は殻を感じずに過ごせたのではないかと思います。子どもたちにとってのセーフゾーンを守り続けてほしいです。親だけではセーフゾーンは小さくなりがちだから、YMCAにはこれからもずっと頑張ってもらいたいです。(ベネズエラ、小4・中1)

リーダーより

- 3日間、様々なバックグラウンドのある子どもたちと過ごすことができ、たくさんの学びがあり、良い経験になりました。子どもたちの笑顔などにとても励まされ、一緒に楽しいキャンプの思い出を作れたことが良かったです。初めてのキャンプだったため、「次はこうしたい」「こう伝えよう」などのアイデアがたくさん出たので、次に子どもと接する時に生かしたいと思いました。(大学3年、初参加)
- 継続して同じ対象にかかわられているからこそ、どうすればキャンプがより良くなるか、子どもが楽しめるかを考えていくおもしろさを感じることができた3日間でした。グループリーダーが子どもたちと一緒に向き合い、プログラムリーダーみんなにたくさん気を配ってもらうことで、助けられた瞬間がたくさんあったし、私自身がとても楽しい時間でした。大阪など遠くから参加するメンバーがいることもわかり、ぜひこれからも子どもたちのために継続・発展していくことを願います。(社会人、3回目)

③サニサイド
マンでの学習支援



多文化共生スペース▽(さんかく)

一年間の活動報告とご支援への感謝

多文化共生スペース▽(さんかく)(以下、さんかく)は、誰もが生きやすい社会を目指し、外国にルーツのある子どもたちを中心に、生きづらさを抱えた若者の活動など、さまざまな取り組みを行っています。

これらの活動の継続と充実のため、2025年2月~4月にクラウドファンディングを実施し、149人の皆さまから3,115,000円のご支援をいただきました。その他にも、会員や賛助会の皆さまからのご寄付、Amazon「ほしいものリスト」を活用した物品寄付、アメリカのピーナツ財団からの助成など、多くの方々から支えていただきました。

さんかくは、活動を続ける中で、子どもや若者がプログラムの時に限らず気軽に立ち寄れる居場所の必要性を強く感じており、日常的に集うことのできる拠点づくりも模索しています。

本稿では、クラウドファンディングの報告も兼ねて、皆さまのご支援によって実現したこの一年間の主な活動をご報告いたします。

今年度の主な取り組み

①外国にルーツのある子どもたちのサマーキャンプ

〔実施日〕
2025年8月22日
~24日 泊3日
〔場所〕東京YMCA
山中湖センター
〔参加人数〕29人



①サマーキャンプ
仲間と協力して課題をクリアするアクティビティ

やすい環境を整え、生活に緊張する子どもも多くいましたが、スタッフやリーダーが気持ちに寄り添いながら丁寧に関わりました。

また、「外国にルーツがあり、日本で育った経験」を持つリーダーが参加したことは、子どもたちにとって、「自分のことをわかってくれる人」「将来の自分を重ねて考えられる存在」と出会う貴重な機会となりました。

外国にルーツのある子どもたちが、自然の中で安心して過ごし、仲間と出会い、自分らしさを発揮できる時間を大切にしました。そのため、「やさしい日本語」や、写真・イラストなどの視覚的な工夫を取り入れ、言葉の不安があっても参加しやすくなるよう工夫しました。

米国のピーナツ財団の協力による塗り絵コンテストでは、言葉だけでない



①サマーキャンプ 富士山に感動!

②ディアウトプログラム「みくす!」

〔実施日〕
2025年5月25日、
7月13日、9月21日、
11月16日、12月21日、
2026年1月25日、
3月1日 全7回
〔参加人数〕延べ45人

表現に多くの子どもたちが取り組み、賞をもらった子どもの自信にあふれた顔が印象的でした。



②みくす!
上手に言葉が通じなくても、楽しさは一緒



②みくす!
体験を通して、日本の文化や暮らしを知る

や発見が生まれます。仲間やスタッフと過ごす時間は、「自分の居場所がある」と感じられる大切な機会を提供しました。実際に見て、聞いて、体験することで、学校の学びだけでは得にくい理解が深まっています。

③にほんこ・学習サポート「サニサイド」

〔実施日〕
〔国立〕毎週木曜日、
年間43回
〔東陽町〕毎週水曜日、
年間28回(9月開始)
〔参加人数〕延べ121人

今年度は、これまでのように、学校からのお願いの整理や相談対応など、保護者への支援も重要な役割です。家庭・学校・地域がゆるやかにつながることで、子どもたちの学びと生活は、より

④多文化理解セミナー

〔実施日〕
2026年2月4日、
2月21日
〔参加人数〕延べ28人

また、学校からのお便りの整理や相談対応など、「対話すること」が地域の支え合いにつながることを改めて実感し、YMCAが目指す多文化共生の姿を発信する場となりました。

東京YMCAをはじめ、にほんこ学院や国際ホテル専門学校、一橋YMCA寮など、事業部や団体の垣根を越えた横断的な連携と協働により、私たちの活動は力強く推進されています。

「居場所を「あり続けさせる」ために

外国にルーツのある子どもたちは年々増加し、言葉や文化、家庭環境など、複合的な困難を抱えています。時に心ない言葉に直面することもありますが、子どもたちを取り巻く環境は、決して安心できず、子どもたちは自分自身を見つけていきます。

「居場所」を継続していくためには、定期的な支援にとどまらず、安心して過ごせる「居場所」の一員として育って

「これからの共生社会をつくる」のではなく、すでに共に生きている社会を、より安心して助け合えるものとして「あり続けさせる」ことが大切だと考えています。その思いのもと、これからも地域の皆さまと、外国にルーツのある子どもたちや生きづらさを抱えた若者一人ひとりに寄り添いながら、安心できる居場所と人とのつながりを育んでいきます。

日頃より活動をサポートくださっている多くの皆さまに心より感謝申し上げます。今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。

(多文化共生スペース▽ MD 江尻明子)

感謝報告

「外国にルーツのある子どもの日常を前向きに!」と掲げて実施したクラウドファンディングに、下記の方々からご協力いただきました。感謝してご報告します。(敬称略/五十音順/匿名希望者を除く)

<寄付者氏名>

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|----------------------|
| 秋田正人 | 鎌田桃子 | 品川亜耶 | 中里敦 | 宮越まどか |
| 飯岡智幸 | 川中太輔 | 篠田真紀子 | 中元美佳 | 宮田 諭 |
| 井口 真 | 菊池央人 | 菅谷 淳 | 中山千種 | 村山達哉 |
| 池田麻梨子 | 北見慶太 | 杉山沙織 | 並木 真 | 村田貴士 |
| 伊藤千紘 | 草分俊一 | 鈴木俊明 | 野澤晴彦 | 森 美華 |
| 今津さゆり | 口原恵美子 | 須田哲史 | 鳩山徹郎 | 柳原みずき |
| 上田晶平 | 久保田祐子 | 砂田文彦 | 原田慧太 | 山口直樹 |
| 上田弘美 | 熊沢佳代 | 瀬戸口潔 | 廣井彩由美 | 山下舞 |
| 梅原大毅 | 小口多津子 | 高橋 伸 | 帆刈政宗 | 山田公平 |
| 江尻明子 | 越陽二郎 | 高橋武嗣 | 保坂天蒼 | 山田拓路 |
| 遠藤恵美子 | 小林由美子 | 高橋陽介 | 星住秀一 | 山梨雄一 |
| 笈川光郎 | 小松康広 | 高橋里香 | 星野太郎 | 吉田有貴 |
| 岡田ナスカ | 是常景子 | 高橋佳衣 | 本多良章 | 渡辺修一 |
| 小川圭一 | 齊藤奈緒子 | 田所悦子 | 蒔田敏雄 | 渡辺大輔 |
| 小川寛史 | 坂井洋一 | 玉田ゆき子 | 真嶋 愛 | 綿引康司 |
| 小原史奈子 | 榊原留美 | 寺川祐介 | 松本数実 | 東京武蔵野多摩
ワイズメンズクラブ |
| 小原武夫 | 佐久間歌子 | 戸坂昇子 | 松本新子 | |
| カイザー嶺 | 佐藤正子 | 永井克朗 | 松本竹弘 | |
| 兼田夏実 | 佐藤信也 | 中内俊一郎 | 三浦功雄 | |

INFORMATION

■早天祈祷会(4月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で折り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日時：2026年4月1日(水)
7:00~8:00

奨励者：篠田真紀子氏
(日本基督教団浅草教会牧師、東京YMCA評議員)

会場：山手センター/オンライン
問合せ：会員部 (03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援くださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら



ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol. 35

世界につながるワイズメンズクラブ (8)

在京ワイズ新年会を開催しました

東京YMCAに所属しているワイズメンズクラブは12クラブあり、毎年1月に「在京ワイズ新年会」を12クラブ持ち回りで開催しています。東京YMCAからも総主事をはじめ会員部や、各クラブ担当のYMCAスタッフ、ワイズと親しいユースや学生の皆さん、近県や遠方から新年のお祝いに集う人たちなど、約100人が一堂に会します。主催する担当クラブのカラーで変わる在京新年会。次はどこで開催するか、どんな出し物があるのか毎年楽しみなイベントです。

今年は1月10日(土)、東陽町センターYMホールにて東京武蔵野多摩クラブがホスト、東京西クラブと東京たんぼぼクラブがサポート、東陽町スタッフの皆さんにご協力をいただき準備をしました。オープニングセレモニーは東京YMCA高等学院トーンチャイム部の生徒さんによる演奏。金属製の不思議な形状の楽器が奏でる柔らかな音色が会場を優しく包みました。



東京YMCA高等学院トーンチャイム部の演奏

式典に続いて「若い世代のユースリーダーとワイズはどんなことで協働できるか？」熊本のアジアユースイベントに参加したユース4人がグループに分かれ、ワイズのおじさん・おばさんたちとお互いの活動を学び、話し合い、一緒にイベントをするなどアイデアと仕掛け、方法を探りながら発表をしました。実行に移せる活動が生まれることを期待し、世代間ギャップを超えて交流・懇親の時を楽しみました。

在京ワイズクラブ会長会幹事：小原史奈子(東京たんぼぼYサービスクラブ)



新年会の参加者

東京YMCAメルマガ登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けします。月1~2回の不定期配信。登録はこちら



東京YMCA公式SNS

Instagram



<https://www.instagram.com/tokyoymca/>

x (旧Twitter)



https://x.com/Tokyo_YMCA

Facebook



<https://www.facebook.com/tokyoymca>

高尾の森わくわくビレッジ ボランティアリーダー募集

「遊ぶ側」から「つくる側」へ子ども向けキャンプを企画・運営する大学生ボランティアリーダー募集しています。計画・準備・当日運営まで本気で関わられます。経験不問。まずは説明会へお越しください。

対象 対象は18歳以上の大学生・専門学校生

開催日程 4月5日(日) ①11:00~ ②13:00~ ③15:00~
4月12日(日) ①11:00~ ②13:00~ ③15:00~
4月19日(日) ①11:00~ ②13:00~ ③15:00~
※各回約1時間、内容は同じです
※日程調整も可能です。お気軽にご連絡ください。

お申込み お電話、またはメールにて下記内容をお知らせください。

電話 042-652-0911
Mail event@wakuwaku-village.com
①お名前(ふりがな) ②年齢(学年)
③性別 ④学校名 ⑤電話番号
⑥参加する日にちと時間(例: 4月19日 ①11時~)

詳しくはお電話またはフロントにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55
www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています